

T P P 「大筋合意」できず

広がる各国の
閣僚会合 反対世論
次回日程は未定

米ハワイ州マウイ島で開かれた環太平洋連携協定（TPP）交渉閣僚会合は7月31日夕（日本時間1日午前）、目標にしていた12カ国全体の「大筋合意」を見送り、交渉を継続するとの共同声明を発表して4日間の日程を終了しました。各国の経済主権や国民生活より多国籍大企業を優先するTPPに対し、各国で反対世論が広がった結果です。次回会合の日程は未定です。

4日間の会合で、新薬の開発データ保護期間、農産物や自動車の市場開放などをめぐって、各国の意見の隔たりが解消されませんでした。

知的財産権の分野では、新薬の開発データ保護期間をめぐり、大手製薬企業の要求を受けた米国が最先端のバイオ医薬品について「12年」を要求。後発医薬品（ジェネリック）に依存するオーストラリア、ニュージーランド、マレーシアなどが「5年以下」を求めて対立しました。乳製品では、酪農大国のニュージーランドが米国、日本、カナダに大幅な市場開放を要求、各国の意見がまとまりませんでした。

安倍晋三政権は、米国とともに交渉を主導するとして、各種の譲歩案を提出。伝えられると

ころによると、農畜産物の関税引き下げや輸入枠の拡大、米輸入の特別枠拡大などを示しました。国内農業と農村の崩壊を進め、食料の安全・安定供給を脅かすものです。

今回の閣僚会合の結果を受けて、全国農業協同組合中央会（JA全中）の萬歳章（ばんざい あきら）会長は1日、「重要品目に関して国内の一部報道の通りに交渉されていたとすれば、到底納得できるものではない」と日本政府の交渉姿勢を批判する談話を発表しました。

また、米国の消費者団体、パブリック・シテイズンは31日、担当者の声明を発表し、「TPPが雇用、賃金、食品の安全、安価な医薬品などを脅かす」と指摘。合意が成立しなかったことは人々と世界にとって「朗報」だと述べました。

閣僚会合の共同声明は「引き続き、限られた数の残りの懸案を解決し、交渉妥結のために取り組み」と述べ、TPPを通じ多国籍大企業の利益をあくまで追求する姿勢に固執しています。2015年8月2日（日）

**安倍政権
礒崎氏だけじゃない
法治国家 否定体質**

「法的安定性は関係ない」と戦争法案についてこう言い放った礒崎陽輔首相補佐官の暴言は、与党内からも辞任論が出るなど安倍政権を直撃しています。3日には参院安保法制特別委員会で礒崎氏の参事人質疑が行われます。憲法無視、民意を踏みにじる安倍政権の体質が問われています。（北野ひろみ）

「法的安定性」とは、憲法や法律の解釈・規定が勝手に変更されず、安定していることです。いわば、法治国家、民主主義の基盤です。

法的安定性態度は変わらず

ところが、これを真っ向から否定したのが礒崎氏の暴言でした。7月25日の大分市内での講演で戦争法案を「違憲」と指摘した憲法学者に対し、「憲法に自衛権というのは何も書いていない。憲法に書いてないのに憲法違反なんかあるはずない」と発言。続く26日の同市内での講演では「法的安定性は関係ない」「時代が変わったのだから、政府の解釈は必要に応じて変わる」とまで述べたのです。

暴言に対する批判の高まりに礒崎氏は「迷惑をかけた」などとツイッターで弁解していますが、「時代」や「国際情勢の変化」だけで憲法の規範は変わってもいいという態度は変わっていません。

第17回
奈良赤旗まつり
日 11月7日（土）
時 午前10時～
会場 奈良10年会館
大ホールと時の広場
主催 共産党奈良県委員会

安倍晋三首相は礒崎氏の暴言に対し、「わが国をとりまく安全保障環境を十分に踏まえる必要があるとの認識を示した発言だ」と擁護。「誤解をもたれるような発言は慎まなければならない」などと述べただけで、礒崎氏と同じく立憲主義を否定する問題への反省はまったく見られませんが、戦争法案の審議と並行して安倍首相の側近から繰り返されてきたことです。

暴言何度も 首相の側近から

重大なのは、こうした憲法無視の暴言が、戦争法案の審議と並行して安倍首相の側近から繰り返されてきたことです。中谷元・防衛相は、戦争法案について「現在の憲法をいかにこの法案に適用させていけばいいのかという議論を踏まえて閣議決定を行った」（6月5日の衆院安保法制特別委）と答弁。法案ありきで憲法解釈をねじ曲げたという「本音」を吐露したもので、その後答弁撤回に追い込まれました。

自民党の高村正彦副総裁は、与党推薦を含む憲法学者全員が相次いで戦争法案を「違憲」と表明したことを受けて「憲法学者はどうしても憲法9条2項の字面に拘泥（こうでい）する」（6月5日の自民党役員連絡会）と攻撃しています。

安倍首相を支持する自民党若手議員らの会合では、「（法案に否定的な）マスコミを懲らしめるには広告収入料がなくなることが一番。経団連に働きかけてほしい」（大西英男議員）と、言論弾圧の暴言まで飛び出しました。

学者ら批判 法秩序自体無視

憲法研究者らで廃案を求める声明を発表している憲法学者の永山茂樹東海大教授は7月28日の記者会見で、「法的安定性を軽視することは、単に憲法の力を弱めるだけでなく、一切の法秩序自体を無視するということ」と厳しく指摘。小沢隆一東京慈恵会医科大学教授は「憲法解釈が変わってはいけない」ということは一般論としてはいえないが、いま政府がやろうとしていることは権力を縛ってきた法解釈を緩め、そこから逃げる法解釈や変更でありそれは許されないと批判しています。2015年8月2日（日）

2015, 08, 04 NO. 721
日本共産党
磯城郡議員団だより
芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
池田 としお Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

日本共産党発行
赤旗
日刊 3497円
日曜版 823円

「きぼう」、見はりましたか？

週末の夜空ですが。国際宇宙ステーション『きぼう』を眺める事が出来ましたね。既に、何度も見てはる方も多い事でしょうが、私は今回が初めてでした。たまたま三十一日の日中、「今夜、日本列島に沿って南から北へ『きぼう』が通過して行くので、全国各地のほとんどどのところで見える事が出来ますよ」と、聞いていたラジオから流れて来まして、早速見る気になった次第です。

何でも、日没後と夜明け前、間際の時間帯に列島上空の通過があれば、地上では沈んでいる太陽の光が上空四〇〇キロに位置する『きぼう』には届いていて、船体に当たった太陽が反射するので、

その光を地上で眺められるとの事でした。

実際に見はった皆さんは如何でした？南西方面から表れる見え始めの時間ですが、有る程度の高度まで『きぼう』が上つて来てくれん事には、見つけにくい事は有りませんでしたか？見つけてしまえば、予想していたよりもずっと鮮明に光っているし、普段、奈良県上空を通過している飛行機よりもスピードが速いですから、光は小さい点に過ぎませんが、星との見分けは付け易く、「あそこは油井さんら六人の宇宙飛行士がやはんねんや」と、思わず手を振ってしまいました。

川西町議会議員 芝和也



桃三昧

この間、ももたろう会が販売されている桃を分けてもらいました。

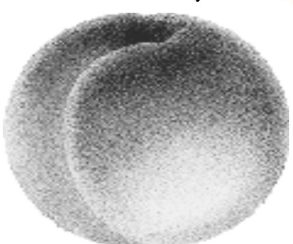
販売初日に千円分（@二百円）おまけをいれて大久保（品種）八個。常温でと聞いていたのですが、それまでの雨の影響か、すぐに傷んできたのであわてて食べました。

月末にも千円分清水白桃おまけも入れて八個を分けてもらいました。赤くて大きい大久保も、白くて大きい清水白桃も一つ食べると大満足。桃の効用は、果糖が疲労回復、ペクチン等水溶性繊維質は便秘の解消、カリウムは高血圧や筋肉のけいれん防止などに利くそうで

す。

今は、黒田で栽培されていますが、蔵堂でも桃を植えられていて来年ぐらいから収穫できるのでは？と期待しています。本町の黒田にあった黒田イホドに考霊天皇の都があつて、その子ども吉備津彦が桃太郎として鬼退治に行つたそうです。

田原本町商店会桃太郎会は、岡山の岡山桃太郎の会、犬山の日本ライン共和国、高松の鬼無観光協会とで日本桃太郎会連合会をつくって全国的に活躍されています。田原本町議会議員 吉田容工



平和であればこそ

もう二カ月前にならざるでしようか、美容室を経営している私の古い友人から、珍しく頼みごとをされました。それは7月末の日曜日に、彼女の知り合いの日本舞踊の先生が、生徒さん方と発表会をされるので、着物の着付けを手伝って欲しいという事でした。

35年位前からの付き合いで、何でも気を遣わずに話せる親友の役に立つならと、快く引き受けました。

当日は朝から大和高田のさざんかホールで広い楽屋で、着物の着付けや帯を結ぶお手伝いをさせて貰いました。舞台で披露するのは四十一曲、其の度に違う着物を着て踊るので中々忙しい思いをしました。

しかし、ほんのわずかな時間を見つけては舞台の優雅な舞を見せて貰いました。気がなれるのはやはり着物の着崩れはしないか・？という事。大丈夫でした！生徒は中学生から八十三歳まで。最高齢の女性は少し腰も背中も曲がっていますが、「家に引つ込んでたらあかん！」と言われ、舞台でもしつかり舞つておられました。日常の生活から離れた経験をさせて貰い、いろんな事が出来た。こんな事が出来るのも、平和があつての事だとしみじみ思いました。

田原本町議会議員 森良子



「安保法制」の行方

表題の論説（辻恵介編集委員）が7月31日付け奈良新聞に掲載されています。一部を紹介いたします。

「衆院での採決前、締めくくり質疑で安倍首相は『国民に十分理解されていない』と認めながらも、慎重審議を求める声押し流し、先を急いだ。任務が拡大する自衛隊員のリスクについて『いろんな事態に対応できる訓練が可能になるで、実際はリスクが下がっていき』といった首相の説明は分かりにくい。野中広務・元官房長官ら自民党の重鎮、先輩議員だった人たちも、い

ろんな機会をとらえて、『平和憲法の大切さ』を訴え、安倍内閣にブ

レーキをかけようとしたが止められていない。先の戦争の惨禍を体験し、その反省に立って、憲法を暮らしのよりどころとして戦後の激動期を生きてきた祖父母や親たちの世代は、苦や親たちの重ね、今日の日本の繁栄を築いてきた。そうした平和を願う努力の積み重ね（この国のかたち）が、一内閣によって否定され、壊されようとしているように感じてしまふのは思い過ぎでしょうか」と告発されています。

老いも若きも党派を超えて「戦争は嫌だ」の一点で今こそ行動する時であります。三宅町議会議員 池田年夫

